書き抜き読書ノート 1599　　2013 年 2 月 10 日

清水貫著「一期一会」トップが綴る さあ、前に進もう！―私が励まされたひと言―

PHP 研究所 2012 年 12 月 12 日刊を読む

一期一会

1．仕事が、なんだか同じことの単純な繰り返しに感じてしまうときはないだろうか。進学塾の仕事は、一年周期の区切りがはっきりしている。新学期、夏期講習、冬期講習、入試、そして卒業と毎年毎年の決まった時期に決まったことがやってくる。ついつい仕事をする側は「また……」と繰り返しに感じてしまいがちになる。しかし、生徒たちにとっては毎年の繰り返しではない。大きな出来事だけでなく、ちょっとした一つひとつのこともすべてが初めての体験。そのときその瞬間、たった一度しか体験できない時間なのだ。

2．先日、高校時代の友人数名で、勇退され暖かいところに終の棲み処を構えられている担任だった先生をお訪ねした。昔話に花が咲いたなかで、互いに言った側が記憶していないような何気ないひと言に、その後大きな影響を受けたという体験が少なくなく、一同驚いた。人生は小さな一歩ずつの選択と行動の積み重ね。どんな些細なことでも、人生を変える大きなきっかけになりうるのだ。これはどんな仕事でも同じはず。単純な作業に感じてしまう仕事でも、必ずそれを受ける相手は、最後は人。たとえその相手がどこの誰かがわからなくとも、その人のために心を込めて仕事をすることを、常に忘れてはならない。

3．また同じように、どんな人といつ出会えるかで、人生は大きく影響を受ける。幸いなことに、経営者の勉強会などを通じて、さまざまな業種の方たちとの素敵な縁ができた。それぞれの道でがんばっている人たちからは、経営の規模の大小などにかかわらず、元気をたくさんいただいている。まるで、その人のエネルギーが、周りの人たちを勇気づける一種の“磁場”を創り出しているように感じることも少なくない。

4．これからも、そういう人たちとの縁を大切にしたい。そのためには、自分自身が周囲の人に少しでも元気や勇気、やる気を与えられる人間になることから始めなければならない。どんな場面でも、自分の力のかぎり、けっして諦めることなく、少しでも進化しようという前向きの“高い志”が、その力を生み出すと確信している。

5．一期一会。いつのとき、どんな瞬間でも、二度と巡り合わない大切な時間。常に全力で、誰にも負けない努力で、がんばります。

P306 ～ 307

［コメント］

尊敬する誉田進学塾代表の清水貫先生の教育論。先生としてあるべき姿を示した好著。

－ 2013 年 2 月 10 日林　明夫記－